1. 本校における働き方改革の基本的な考え方

「子どものため」という熱意や使命感だけで、長時間勤務で疲れている教師では子どもたちに良い指導はできない。これまでの働き方を見直し教職員が本来的な業務に専念し、限られた時間の中で、効果的な教育活動を行えるようにするために「学校の働き方改革」が必要である。またそれは、指導する立場である教師自身が、日々の生活の質や教職人生を豊かにし、心身の健康を維持すること、また、物事の見方やとらえ方を広げ、自らの人間性や創造性を高めることにつながる。

2. 目 標

すべての職員が、働きがいと充実した生活のワークライフバランスを感じられる働き方ができる学校に！

- ・月あたり超過勤務時間の平均40時間以下を目指す
- ・平日は午後7時30分、定時退勤日は午後6時の完全退勤を目指す。

3. 本校の現状

- ・一人ひとりが「ワークライフバランス」を意識し、それぞれの働き方を見直し、行動しようという意識は少しずつ高まってきた。
- ・有効な時間の使い方に対する意識は高くなってきたが、研修・出張後の残務や担当する校務や、学期はじめ・学期末等の時期によっては、超過勤務時間が多くなる実態があった。
- ・保護者の理解も浸透しつつあり、夕方の保護者からの電話や来校などは少なかった。
- ・超過勤務が多い教員に対して、職員同士での意識的な声掛けや、業務内容の確認・分担が必要である。

4. 教職員の長時間勤務を改善するための取組

- ・学校評価の結果を踏まえた、次年度の構想を話し合う会議において、働き方改革の視点を取り入れて協議。
- ・桐原小学校働き方推進月間を設定し、7月、12月、3月の一週間を全学年5時間授業とし、成績等事務作業の時間を確保。学校便りで保護者・地域に周知。
- ・定時退勤日週1日（曜日は各自で設定）を継続
- ・退勤目標時間を「まっくらタイム」と名付け、毎日呼びかけを行う。また個人退勤目標について月曜日の打合せ後に各学年で話し合う。その日の「まっくらタイム」を職員室出入口に掲示する。
- ・ただ「早く帰りましょう」ではなく、感謝の気持ちとライフワークバランスの大切さを全職員で理解する。
- ・OJTで「働き方改革」をテーマの一つとし、それぞれの働き方を見直す。また若手教員から「働き方改革のアイデア」を発信する。

令和5年度 桐原小学校 教職員働き方改革推進への取組

- ・ **帰る時間の目標を持つ。**「今日は〇時まで！」
- ・ **出退勤の打刻の習慣化。** タイムコストの意識化
- ・ **会議の開始時間の厳守！**
終了時間の共有！ 効率的なタイムマネジメント
- ・ **電話は、7：40～18：30**（緊急案件は除く）
- ・ **仕事の協働**（教科、行事、分掌、学年業務等）
- ・ **ライフ・ワーク・バランス**を考えよう。
「自分の健康のため」＋「子どもたちのため」